

平成 29 年度（第 61 回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

特設分科会 3  
健やかな体「体」

研究主題

楽しんで運動習慣の形成を図るための一工夫

平成 30 年 2 月 8 日  
雫石町教育委員会  
雫石町立七ツ森小学校  
副校長 佐々木 伸也  
雫石町立御所小学校  
教諭 山根 一志

## 1 研究テーマ

楽しんで運動習慣の形成を図るための一工夫

## 2 研究の趣旨

本町の児童・生徒は、新体力テスト等の諸調査結果において、「50m 走」「立ち幅跳び」の項目が全国平均を下回っている。また、岩手県において肥満児童・生徒の出現率は全国平均よりも高い傾向にある。本町においても、運動習慣の二極化などの問題をかかえ、肥満の状況は県同様である。

これらの課題に対して、学校では児童・生徒の体力の状況に応じた適切な運動能力の向上を図るとともに、生涯スポーツの観点から、自ら運動習慣を積極的に形成しようとする主体的な態度を育成していかなければならない。

そこで、本研究では上記テーマを掲げ、「雫石っ子体力向上推進事業」を実施するとともに、児童・生徒が自分の体力の課題を知り、楽しみながら運動に取り組めるよう学校に情報提供等を行い、児童・生徒の体力向上を図ることを目的とする。

## 3 研究内容

- (1) 新体力テストの結果を受けた体力向上対策事例の情報交流
- (2) 運動が好きになる取り組み事例の情報交流
- (3) 雫石っ子体力向上推進事業の実施

## 4 新体力テストの結果を受けた体力向上対策（平成 28 年度の取り組み）

春に実施する新体力テストの結果を受け、各学校では岩手県の傾向、町全体の課題、学校、学年毎の実態に応じた対策を計画し、体力向上に努めていただいている。いずれもテストの種目そのものを繰り返し練習するだけでなく、児童・生徒が目標を持って楽しく運動に取り組めるよう、意欲の向上に配慮された実践がなされている。

### (1) 各校の体力向上対策事例

A 校	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度と今年度の結果を比較し、各学年男女別の体力・運動能力の課題を全教職員で共通理解した。</li><li>・体育科の時間に各学年の課題に合わせた運動を取り入れた。（授業のはじめの時間）</li></ul>
B 校	<ul style="list-style-type: none"><li>・「50m走」の結果が全体的に落ち込んでいたことから、1・2年生「体づくり運動」「走・跳の運動遊び」、3・4年「体づくり運動」「走・跳の運動」、5・6年「体づくり運動」「陸上運動」において、素早い動きや力強い動き、走り方（フォーム）を意識した指導を行った。</li></ul>
C 校	<ul style="list-style-type: none"><li>・体力テストの結果を分析し、落ちている部分の傾向を把握した上で、その項目に関連した運動を年間を通じて授業最初のウォーミングアップや補強運動に取り入れている。</li><li>・体力向上のために「運動量の確保」「外遊びの奨励」「場の工夫や環境整備」「教材研究と指導改善」に努めている。</li></ul>

D校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に走力、持久力、ソフトボール投げが落ちていたので、週に1回の「パワーアップタイム」で、ランニングドリル、マラソンを取り入れた。</li> <li>・ソフトボール投げについては、全学級で体育の時間に投の運動を取り入れるようにした。</li> </ul>
E校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育担当から、業間握力鍛錬の取り組み「グーパー運動」を提案し、1ヶ月間（毎日業間休みの30秒間）取り組んだ。</li> </ul> <p>「グーパー運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①立腰姿勢で立ち、腕を水平前方にまっすぐ伸ばし、30秒間できるだけたくさんグーパーを繰り返す。</li> <li>②腹（下丹田に力を込め）から声を出し、大声で数える。</li> <li>③感想用紙による児童の意識調査と、握力測定の数値の前年度比較から評価する。</li> </ol>
F校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のデータを生徒と各部の顧問に提示し、意識を高めた。</li> <li>・体育授業の準備運動、ウォーミングアップに各機能を高めるメニューを取り入れ、全校統一して行っている。</li> </ul>

## (2) 実践事例の具体 (G校)

### ア 体力テストの結果分析と具体的体力向上対策の設定

- ・体力テストの結果を体育担当が整理して職員会議で提示し、全職員で課題を確認した。
- ・例年課題となっているソフトボール投げと、学年毎に特に落ちている種目2つ程度について向上を図るため、体育担当が次のイ、ウを提案し、全校で取り組むこととした。
- ・上記種目について12月に再度測定し、変容を評価することとした。

### イ 体育授業での対策

各種目の運動能力が伸びる運動を体育館に掲示し、学級毎に課題に沿って体育の初めの時間に取り組む。

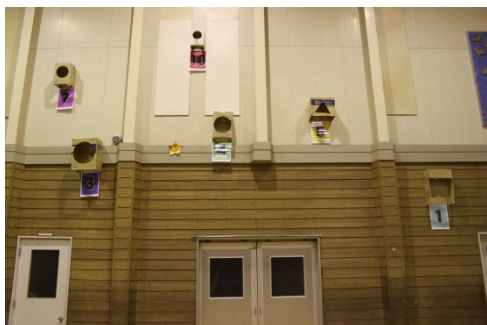
- ・日本体育協会「みんなで遊んで元気アップ！アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP)」ガイドブックを分かりやすく編集して、絵と共に体育館に掲示した。(下写真)(10種目)
- ・運動種目の選定と実施の留意点については、盛岡教育事務所「体力向上を目指した授業改善の取り組みについて」を参考とした。
- ・全学級で体力テストの結果を分析し、それぞれの学級の課題に合わせた運動に体育で毎時間必ず取り組むこととした。



### ウ 日常遊びへの運動の導入

「ソフトボール投げ」が落ち込んでいたので、まと当てを常設し、意欲を高めて日常的に運動させる。

- ・体育館の背面の壁に段ボール箱で作ったまと当てを常設し、自由に遊ばせる。
- ・箱には難易度によって点数をつけ、挑戦や競い合いを楽しめるようにした。
- ・まとを高い位置に設置し、ソフトボール投げの投げる角度に慣れさせるようにした。



### エ 体力テスト再実施の結果

- ・各学年の課題となっていた種目について対策後の測定を行ったところ、まだ全国平均には届かないものもあるが、ほぼ全部の項目で向上が見られた。

学年	性別	種目 (記録の単位)	平均記録 (6月→12月)	変化	全国平均
1	男	立ち幅跳び (cm)	98.3 → 111.4	13.1	114.2
	女	立ち幅跳び (cm)	86.2 → 98.6	12.4	106.3
2	男	長座体前屈 (cm)	24.6 → 25.7	1.1	27.2
	女	立ち幅跳び (cm)	108.8 → 111.8	3.0	118.4
3	男	長座体前屈 (cm)	26.0 → 29.3	3.3	29.5
	女	長座体前屈 (cm)	28.0 → 31.5	3.5	32.6
4	男	上体起こし (cm)	14.4 → 17.3	2.9	18.3
	女	長座体前屈 (cm)	26.2 → 33.0	6.8	34.1
5	男	長座体前屈 (cm)	28.3 → 42.8	14.5	32.9
	女	長座体前屈 (cm)	33.5 → 48.1	14.6	37.6
6	男	シャトルラン (回)	50.4 → 52.9	2.5	63.6
	女	立ち幅跳び (cm)	151.3 → 175.3	24.0	157.3

## 5 運動が好きになる子を育成する取り組み

当町の児童・生徒の日常的な運動状況は、他地区同様二極化が進んでいることが伺われる。また、少年団活動に参加する児童は比較的多いが、競技スポーツを前提としていることが多く、運動経験や体力バランスに偏りが生ずる懸念がある。

したがって、児童・生徒自らが体を動かすことを好み、いろいろな運動に積極的に取り組もうとする態度を育むことは、適切な体力向上の取り組みとして大変重要である。

各学校において、運動が好きになる子を育成するための取り組みが行われているが、同時に時間の確保や場の設定、挑戦意欲を高めるための方策等の課題も抱えている。

(1) 各校の運動好きになる取り組み事例

A校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日の業間休みを全校外遊びの日として、体を動かして遊ぶ機会を設定した。</li> <li>・児童会の月の生活目標でも、体を動かして遊ぶことを設定し、1ヶ月間取り組んだ。</li> </ul>
B校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業間運動（トラック周回数、校内マラソン大会に向けた3回のマラソン試走）において、「自分のめあてのタイム」を設定させて取り組ませた。どの児童も意欲的に運動に取り組んだ。</li> <li>・6月から11月の毎月の最終金曜日に「全校縦割り遊び」を実施した。鬼ごっこやドッジボールなど、多様な運動遊びに取り組むことができた。</li> <li>・児童会執行部の企画・運営により全校が外で遊べるような取り組みを行った。校庭を一生懸命走り回る姿がみられた。</li> <li>・いつでも外でサッカーやキックベースボールなどができるようにラインを引き、遊べるようにした。</li> </ul>
C校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業間運動の実施（4月～11月まで3分間走、12月～2月まで縦割り班による長縄運動） 長縄運動は、上学年と下学年の交流を深める場にもなっている。上学年が下学年に教えたり、お世話したりすることで、運動が苦手な児童も楽しく長縄運動に取り組んでいる。また、2月に「校内長縄跳び大会」を設定しているので、それに向けて、リーダーを中心に優勝目指し、グループで協力し合うこと児童が運動好きになるように仕組んでいる。</li> <li>・場や学習カード等の工夫 児童が興味関心を持つようなカードを作成したり、賞を与えたりしている。</li> <li>・教材研究と指導改善</li> </ul>
D校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天時等、パワーアップタイムで他校の体操を取り入れて行ったところ、特に低学年で楽しみにしている子が増えた。</li> <li>・なわとびのカードを作り、さらに体育館入り口に全校の級が分かるように掲示したところ、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・マラソンカードを使い、校内マラソンに向けて目標を持って取り組むことができた。</li> </ul>
F校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での運動量を確保する。</li> <li>・種目の特性にせまる授業力を向上させる。</li> <li>・仲間同士のアドバイス、高め合いを積極的に取り入れ、動くことの様々な喜びを体感させる。</li> </ul>

(2) 実践事例の具体（G校）

ア スーパーアスリートによるかけっこ教室

- ・数年来 50m走に課題があった。
- ・スーパーアスリートによるかけっこ教室を4月の授業参観日に開催する。
- ・保護者も一緒に運動したり参観したりするように、PTA研修会一環として位置付ける。保護者向けのレクチャーも行う。
- ・走の運動だけでなく、小学生の時期に身につけさせたい運動能力を育てる動きを紹介してもらおう。
- ・主に運動の楽しさを味わわせるような内容とする。



### イ 夏休み水泳教室

- ・泳げない、水泳が苦手、もっと泳力を伸ばしたいと思う児童を対象に、PTA主催として実施する。
- ・夏休み中に3～4日。昼に1時間。
- ・保護者が指導補助や見守りを行う。
- ・レベルに応じて個別指導を行うため、指導効果が高い。

### ウ 校内マラソンの取り組み

- ・9月下旬に校内マラソン大会を設定し、夏休み明けから練習に取り組ませる。
- ・学校から盛岡市役所まで(20 km)のマラソンカードに、毎日走った距離を記録させる。全部達成したら折り返しとし、練習の励みにさせる。
- ・個人の努力を尊重し、朝、昼休み、放課後等の自主練習も記録に加える。
- ・マラソン大会の実施を地域にも周知し、毎年沿道にたくさんの方が応援に出てくださる。小旗を配って応援に協力していただき、子ども達の励みになっている。

**がんばろう業間マラソン！めざせ盛岡市役所！！**  
 ～おうちから28kmを走り切ろう！～ 低学年バージョン～ (記録簿用紙)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

平成28年度  
**安庭小学校  
 校内マラソン大会**  
 平成28年9月30日(金)  
 1・2年 1.5 km 9:55 スタート  
 5・6年 3.0 km 10:00 スタート  
 3・4年 2.0 km 10:25 スタート  
参加費無料、1学年生は10分遅刻します。  
 すがすがしい秋の栗石を、元気いっぱい  
 のあにわっ子が駆け抜けます。  
 保護者のみなさん、おじいちゃん、  
 おばあちゃん、地域のみなさん  
 たくさんの声援をお願いします！

安庭小学校マラソン大会2014  
  
 おうえんが輝きます！  
 安庭小学校マラソン大会2014  
 チラシ(左)と小旗(上)  
  
 おうえんが輝きます！

## エ ねらいを絞った業間運動

- 年間を通じて業間なわ跳びに取り組ませる。マラソン大会前は業間マラソン練習に切り替える。
- 11月には長なわ跳びを縦割り班で練習し、児童会主催の「長なわ跳び大会」を開催する。
- 短なわ跳びは、検定制度を設け、児童の意欲を高めるようにしている。
- 冬季は、業間なわ跳びと雪上マラソンを学年で振り分け、交互に行う。



安庭小学校 なわとび検定カード(2学期集計)

氏名

※記録でつなぐ記録に意欲を高めよう。

種別	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期	10学期	11学期	12学期
短なわ	5	10	15	20	30	50	80	100	150	200	230	300
1年生												
2年生												
3年生												
4年生												
5年生												
6年生												
計	1	3	5	10	15	20	30	50	80	100	120	140
1年生												
2年生												
3年生												
4年生												
5年生												
6年生												

1学期 2学期 3学期 4学期 5学期 6学期 7学期 8学期 9学期 10学期 11学期 12学期

## 6 雫石っ子体力向上推進事業の実施

雫石町教育研究所の体力向上に係る取組の一つとして、冬季の運動量の減少を解消するため、「なわとび」に取り組む研究協力校を募集し、雫石っ子体力向上推進事業を行うこととした。

### (1) 事業の概要

- ア 体育授業の準備運動等に「短なわ跳び」を取り入れること
- イ 休み時間等の集団遊びに「大なわ跳び」を奨励すること
- ウ 研究協力校の記録を交流し、意欲喚起につなげること
- エ 事業の実施前後に運動について意識調査を行い、意識の変化をみとること
- ※ 詳細は別紙実施要項参照

### (2) 実施期間

- ア 募集期間 平成28年 9月28日(水)～平成28年10月 7日(金)
- イ 取組期間 平成28年10月11日(火)～平成29年 2月24日(金)

### (3) 研究協力校

七ツ森小学校、安庭小学校、橋場小学校

### (4) 実践の結果について

#### ア 参加者数

- (ア) 短なわ30秒スピード跳び 122名
- (イ) 連続二重跳び 96名
- (ウ) 大なわ3分間8の字跳び 13チーム(109名)
- (エ) 大なわ一斉跳び 7チーム(49名)

## イ 最高記録・平均記録

(ア) 短なわ 30 秒スピード跳び

最高 125 回 平均 83.3 回 伸び平均 16.9 回

(イ) 連続二重跳び

最高 102 回 平均 25.2 回 伸び平均 13.7 回

(ウ) 大なわ 3 分間 8 の字跳び

最高 171 回 平均 71.6 回

(エ) 大なわ一斉跳び

最高 30 回 平均 14.3 回

## ウ 基準記録突破者

(ア) 短なわ 30 秒スピード跳び

16 名 (うち 1 名は優秀賞)

(イ) 短なわ連続二重跳び

15 名 (うち 1 名は優秀賞)

(ウ) 大なわ 3 分間 8 の字跳び

3 チーム

(エ) 大なわ一斉跳び

1 チーム

## エ 意識調査の結果

以下の内容について、事前、事後に意識調査を行い比較した。(1～5 点)

(ア) 自分は運動能力がすぐれていると思います。

事前 3.63 → 事後 3.70

(イ) 運動をしている時、先生や友だちが励ましたり、応援したりしてくれます。

事前 4.00 → 事後 4.25

(ウ) 一緒に運動をしようときそってくれる友だちがいます。

事前 3.96 → 事後 3.95

(エ) 運動について自信を持っているほうです。

事前 3.72 → 事後 3.84

(オ) できない運動でも、あきらめないで練習すればできるようになると思います。

事前 4.67 → 事後 4.67

(カ) 運動することが、大好きです。

事前 4.32 → 事後 4.35

※七ツ森小学校においては、事後アンケートに 7 番目の質問項目に以下の内容を加え、記録の交流について意識調査した。

(コ) 他の学校や他の学年の友だちの記録を見ると、もっとがんばろうと思います。

事後 4.31

## (5) 考察

### ア 短なわの記録について

30 秒スピード跳びについては、1 年生～6 年生までの全参加者最高記録が 125 回、平均記録は 83.3 回、記録の伸び平均は 16.9 回と短期間の取組の割には、記録の伸びが見られる結果となった。一般的には「30 秒間に 70 回」跳べるようになると二重跳びに挑戦できる技能が身についているといわれているので、1 年生を含んでの平均が 83.3 回は、好記録であるといえる。



また、短期間に平均で 16.9 回も記録が伸びていることは、とても大きな成果である。このことが、運動についての自信や運動が好きになることと結びついているのではないかと考えられる。

連続二重跳びについては、2 年生以上 96 名の取組になっていたが、最高記録が 102 回、平均記録 25.2 回、記録の伸びの平均が 13.7 回とこちらも好結果であった。二重跳びは、30 秒スピード跳びと違い、記録がすぐに伸ばせるものではない種目である。まず、「できない」から「できる」になる段階で一つ、「1 回できる」から「連続でできる」までにもまた壁があり、記録の伸びには課題が多い種目ではある。しかし、たった 1 か月半の取組で、二重跳びができる人数が、96 名中 91 名となっている。2 年生も含んでの実態であることから考えると、とてもよい結果であると考えられる。

#### イ 大なわの記録について

3 分間 8 の字跳びについては、最高記録 171 回、平均記録 71.6 回という結果であった。最高記録は 1 秒に約 1 回というペースなので、リズムよくあまり途切れることなく連続で行うことができている記録と考えられる。ただし、平均が 71.6 回は 3 秒に 1 回程度であるので、まだ種目自体に慣れていないことが考えられる。

一斉跳びについては、最高記録が 30 回、平均記録 14.3 回であることとともに、参加者が 49 名とこれからまだまだ伸びが期待できる種目である。

#### ウ 意識調査の結果について

「運動をしているとき、先生や友だちがはげましたり、応援したりしてくれます。」「一緒に運動をしようときそってくれる友だちがいます。」「できない運動でも、あきらめなくて練習すればできるようになると思います。」の 3 つについては、事前と事後には差は見られなかったと考えられる。

「自分は運動能力がすぐれていると思います。」「運動することが、大好きです。」については、0.3 ポイントの向上が見られた。また、「運動について自信を持っているほうです。」においては、1.2 ポイントの向上が見られた。このことは、この事業への取組過程において、今までやっていなかった種目やできなかった種目に挑戦して「できるようになった」という経験をすることにより、運動についての自信を深めることに繋がったと考えられる。

また、事後のみ七ツ森小学校で追加した「他の学校や他の学年の友だちの記録を見ると、もっとがんばろうと思います。」という質問項目について、4.31 という結果となったことは、少人数だけの結果ではなく、他の学校や他の学年の記録を知ることにより、刺激を受け取組への意欲も喚起されたのではないかと考えられる。

#### エ 事業全体について

実践時期が 10 月中旬から 2 月までの実質 2 か月半という短い期間であったが、各校においてできる範囲での取組により、大きな負担なく取り組むことができた。

「なわ跳び運動」は、比較的容易な運動で、上達が「種目」や「回数」などでわかりやすく、場所や時間、人数、道具などの制約も比較的少ないものである。また、運動の特性上、地面からの反発力を効率よく受けるため足首をちょうど良い角度でブロックして、ジャンプするときの地面への接地をできるだけ短時間で行う技術が自然に身に付く。このことは、走運動の基本的な技能の向上に効果的であると考えられる。ひいては 50m 走の記録の向上とも大いに関係があるものと思われる。

このように、冬期間から学年末にかけて運動する機会が減少する時期に奨励しておくのに適した運動であり、継続していくことが好ましいと考えられる。

## 7 体力向上推進上の悩み等

各校から情報提供をいただいた中で、体力向上推進上の課題や悩みについて次のような回答をいただいた。同様の課題や悩みを抱える学校は多いと考える。

- ・業間休みの全校外遊びの他に、運動の種目を決めて取り組みを実施したいが、児童数や運動スペース等の関係で、今年度は実施できなかった。短時間で全校児童が運動できる内容を考えていくこと。(A校)
- ・業間運動の内容がマンネリ化していることから、子ども達の運動欲求を高められるような運動や遊びの工夫が必要であること。(B校)
- ・体力向上担当だけでなく他の担任にも体力向上に係る研修会参加を促したいこと。(B校)
- ・休み時間はあるものの、汗をかいて遊ぶ子が少ないので、来年度はドッチボールコートのラインを引く等環境づくりをしていきたい。(C校)
- ・なわとびやランニングなどの取り組みによって、業間休み時間(遊び時間)を奪ってしまうこと。(E校)
- ・部によっては、全く運動しない部もあり、差が激しい。(G校)
- ・日常生活において、体を使う場面が減っている。(G校)

## 8 平成29年度の新体力テストの結果について

### 【セツ森小学校】

(1) テスト結果 対象：現2～6学年児童

男子									女子									
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)		
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	
2学年	H28年度	9.50	7.75	32.00	26.50	21.50	11.85	111.50	8.00	H28年度	8.17	11.83	36.50	25.33	15.67	12.40	110.00	5.50
	(全国比)	103.83	66.81	124.32	97.50	113.94	97.14	97.62	92.49	(全国比)	95.63	107.67	130.08	95.31	104.24	95.45	103.52	95.82
	H29年度	11.25	16.75	29.75	33.50	47.50	10.38	121.75	12.50	H29年度	10.17	16.33	30.17	34.67	42.83	10.47	116.33	7.50
	(全国比)	101.90	118.29	106.33	106.52	167.19	103.04	97.92	104.08	(全国比)	97.66	117.85	97.72	113.33	177.73	104.33	99.33	99.08
全国比差	-1.93	51.48	-17.99	9.02	53.25	5.90	0.30	11.59	全国比差	2.03	10.18	-32.36	18.02	73.49	8.88	-4.19	3.26	
3学年	H28年度	10.33	19.56	27.33	33.11	32.22	11.49	146.22	12.56	H28年度	8.75	17.25	33.75	31.00	21.25	14.73	125.25	6.50
	(全国比)	94.37	138.69	100.45	105.75	111.46	91.41	115.87	103.51	(全国比)	84.38	129.70	112.58	102.51	93.61	65.53	105.80	85.30
	H29年度	12.44	23.22	29.33	39.78	45.78	9.77	140.00	18.78	H29年度	12.40	19.40	37.00	32.20	25.00	10.02	132.40	11.20
	(全国比)	94.85	139.98	99.60	110.52	117.08	103.28	102.34	115.77	(全国比)	100.49	123.25	113.99	94.57	83.42	103.00	102.95	114.17
全国比差	0.48	1.29	-0.85	4.77	5.62	11.87	-13.53	12.26	全国比差	16.11	-6.45	1.41	-7.94	-10.19	37.47	-2.85	28.87	
4学年	H28年度	10.80	18.40	31.40	37.40	34.60	11.26	140.80	20.20	H28年度	12.88	19.50	38.38	40.50	31.38	9.96	155.13	12.88
	(全国比)	83.08	101.30	106.55	104.79	87.79	87.62	102.38	122.95	(全国比)	108.19	130.26	120.93	120.29	108.38	104.21	120.98	135.10
	H29年度	13.83	21.67	30.00	42.17	56.00	8.80	153.00	24.83	H29年度	15.44	25.22	38.00	42.44	51.22	8.53	180.44	17.11
	(全国比)	92.59	117.24	95.33	106.67	118.87	97.92	105.88	123.06	(全国比)	108.53	146.13	111.88	111.55	139.53	103.80	117.35	143.19
全国比差	9.51	15.94	-11.22	1.88	31.08	10.30	3.50	0.11	全国比差	0.34	15.87	-9.05	-8.74	31.15	-0.41	-3.63	8.09	
5学年	H28年度	13.13	22.25	27.75	43.13	48.38	9.98	153.25	22.50	H28年度	13.40	13.40	35.20	37.40	36.80	10.38	147.40	10.00
	(全国比)	88.68	121.45	90.04	109.34	103.34	95.79	105.17	111.33	(全国比)	97.31	76.83	103.14	99.71	99.51	95.47	107.30	82.51
	H29年度	15.89	21.44	29.67	46.11	48.78	9.47	158.00	25.78	H29年度	13.75	15.25	33.50	40.75	49.75	9.88	161.00	10.25
	(全国比)	92.81	103.90	88.61	105.23	86.36	98.10	102.40	107.81	(全国比)	82.93	79.26	87.26	97.58	111.92	98.16	109.26	71.13
全国比差	4.13	-17.55	-1.43	-4.11	-16.98	2.31	-2.77	-3.52	全国比差	-14.38	2.43	-15.88	-2.13	12.41	2.69	1.96	-11.38	
6学年	H28年度	18.67	19.17	32.17	43.67	46.50	9.78	151.83	28.83	H28年度	19.67	18.00	41.00	40.33	47.33	9.27	166.00	18.00
	(全国比)	110.00	94.70	97.86	101.83	84.70	93.77	97.94	121.92	(全国比)	117.20	95.64	109.07	99.27	107.70	101.94	112.21	122.37
	H29年度	21.17	21.67	37.17	45.33	54.67	8.98	164.00	30.00	H29年度	24.33	20.33	34.67	41.00	53.00	8.43	173.00	21.00
	(全国比)	104.48	98.93	104.34	97.18	84.44	97.68	92.58	109.45	(全国比)	123.33	101.31	85.81	93.46	104.43	107.58	110.27	127.27
全国比差	-5.52	4.23	6.48	-4.65	-0.26	3.91	-5.36	-12.47	全国比差	6.13	5.67	-23.26	-5.81	-3.27	5.64	-1.94	4.90	

【表1】同一集団の経年比較(全国比はH28年度全国平均より)

【表 2】総合評価の比較（段階別割合） 対象：現 2～6 学年児童

	A	B	C	D	E
H28	24%	31%	24%	21%	0%
H29	28%	39%	26%	5%	2%

(2) 考察

ア 全体的な傾向として

- ① 同一集団の経年比較において、前年度から伸びが見られたのが全項目数 80《8 種目×5 学年×2(男女)》の内、46 と半数以上を占めた。【表 1】
- ② 全国比差の平均を出してみると、前年度 103.28 だったものが、今年度は 106.70 と、3 ポイント以上の伸びが見られた。【表 1】
- ③ 全国比が 100 を超えた項目が、男女別各 40 項目《8 種目×5 学年》中、男子においては 22 から 25 へ。女子においては 24 から 26 へ増加した。【表 1】
- ④ 総合評価の比較（段階別割合）において、A B 段階の児童の割合が 55%から 67%へと増加し、D E 段階の児童の割合が 21%から 7%へと減少した。【表 2】

これらの効果が認められた要因として次のことが考えられる。

- ・縄跳び運動を中心とした冬場の体力づくりの取組の成果。
- ・その取組により、「できる」ことが増え、個々の技能が高まり運動に対する自信や好感感が持てたことにより、自ら進み運動する習慣が身に付くことに繋がったこと。
- ・新体力テストの結果分析により、自校の課題を全教員の共通理解のもと把握したこと。さらに、その傾向と対策（改善策）に関心をもって日々の体育の学習や業間運動のあり方に、必要な手立てを組んだこと。
- ・日常の遊び方や運動が好きになるような働きかけを積極的に行ったこと。

イ 特徴的（顕著）な傾向として

- ① 種目別に見ると、男女とも「50m走」の結果において、顕著な伸びが見られた。その中でも、特に 3 学年女子の記録が著しく向上し、前年度は全国比 65.53 と落ち込みが見られたが、今年度は全国平均を上回る 103.00 と改善した。【表 1】
- ② 同じく、男女とも「上体起こし」の結果において、顕著な伸びが見られた。その中でも、特に 2 学年男子の記録が著しく向上し、前年度は全国比 66.81 と落ち込みが見られたが、今年度は全国平均を上回る 118.29 と改善した。【表 1】

これらの特に高い効果が認められた要因として次のことが考えられる。

- ・3 学年女子および 2 学年男子に落ち込みのあった種目について、担任・体育担当等が問題意識をもって把握し、改善を意識しながら指導に当たることができたこと。
- ・縄跳び運動の取組により、励まし合ったり応援し合ったりする好ましい場面や関係が増えたことで、苦手を克服しようとする意識や態度が育つことに繋がったこと。
- ・縄跳び運動の継続した取組により、ジャンプするときの地面への接地をできるだけ短時間で行う技術が自然と身に付き、特に 50m 走の記録に反映したこと。
- ・縄跳び運動の日常化、遊びへの取り入れが図られ、体育の授業での準備運動としての位置づけ等、継続した指導が行われたこと。

ウ 今後に向けて

- ・新体力テストの結果をさまざまな視点から分析し、体育担当を中心とした全教員が課題意識をもった指導につなげていくこと。特に、握力の落ち込みが見られたことから、鉄棒運動や肋木を使った運動遊びを強化したり、日常の遊びに取り入れたりするなどの対策を確認している。
- ・落ち込みの見られる種目をつくらぬよう、またいわゆる体力の二極化を生まないよう、体力テストの結果を全体的に捉えたり、個別に見たりしながら、バランスよく、またどの児童に対しても目を向けながら指導に当たること。
- ・体育の授業と業間運動を関連させ、年間を通して、楽しみながら運動習慣を維持できるよう、体力向上の指導に改善を加え、工夫し続けていくこと。週2回の業間運動がマンネリ化しないよう、見直しながら行っている。見直しの視点：①時間に関わること ②場(所)に関わること ③仲間に関わること。
- ・児童が「楽しい」と感じることができるよう、コツがわかることやうまくできる体験を積ませる体育の授業改善に取り組むこと。

【御所小学校（安庭小学校）】

(1) テスト結果 対象：現2～6学年児童

御所(安庭)小学校 児童(同一集団の経年比較)										(H28年度結果: 安庭小結果より 全国比: H27年度 全国平均より)									
男子					女子														
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)		(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)		
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ		
2学年	H28年度	8.57	11.00	22.29	26.43	16.29	12.59	98.29	10.57	H28年度	8.79	10.18	27.55	23.45	14.45	12.03	91.64	6.73	
	(全国比)	93.68	94.83	86.58	97.24	86.30	90.75	86.05	122.21	(全国比)	102.19	92.65	98.17	88.24	96.17	98.59	86.24	117.20	
	H29年度	8.29	16.29	27.71	32.00	21.14	12.59	129.71	14.29	H29年度	8.77	13.00	34.15	30.77	19.31	11.95	110.46	8.00	
	(全国比)	84.11	115.01	99.05	101.75	74.42	82.38	104.33	118.95	(全国比)	84.24	63.80	110.64	100.59	80.11	90.73	94.31	105.68	
	全国比差	-9.57	20.18	12.47	4.51	-11.88	-8.37	18.28	-3.26		全国比差	-17.95	-28.85	12.47	12.35	-16.06	-7.86	8.07	-11.52
3学年	H28年度	11.91	13.82	26.09	32.82	28.55	10.97	111.73	15.18	H28年度	13.17	9.33	32.67	34.50	22.83	10.83	108.83	10.00	
	(全国比)	108.76	98.00	95.89	104.82	98.74	96.29	88.53	125.16	(全国比)	126.97	70.18	108.96	114.09	100.59	102.89	91.94	131.23	
	H29年度	13.54	13.23	32.00	37.15	40.69	9.87	135.15	18.23	H29年度	13.80	11.20	34.00	35.80	28.80	9.94	133.40	11.80	
	(全国比)	103.19	79.75	108.66	103.23	104.07	101.70	98.80	112.40	(全国比)	111.83	71.16	104.74	105.14	99.43	103.78	103.72	120.29	
	全国比差	-5.57	-18.25	12.77	-1.59	5.33	5.41	10.27	-12.76		全国比差	-15.14	0.98	-4.22	-8.95	-1.16	0.89	11.78	-10.94
4学年	H28年度	14.57	16.14	26.00	39.14	41.57	10.10	130.29	24.86	H28年度	13.75	16.75	28.00	43.50	41.50	10.30	119.50	9.75	
	(全国比)	112.09	99.71	88.23	109.67	105.48	99.20	94.73	151.29	(全国比)	115.55	111.89	86.00	129.20	143.35	100.96	93.20	102.31	
	H29年度	15.09	22.36	23.73	44.55	48.18	9.72	144.36	26.00	H29年度	14.20	18.00	26.20	41.60	44.20	9.96	122.80	12.60	
	(全国比)	101.01	121.02	75.40	112.69	102.28	98.77	99.91	128.84	(全国比)	99.79	104.29	75.16	109.33	120.40	99.50	89.82	105.44	
	全国比差	-11.08	21.31	-12.83	3.02	-3.20	-0.43	5.18	-22.45		全国比差	-15.76	-7.60	-10.84	-19.87	-22.95	-1.46	-3.38	3.13
5学年	H28年度	15.43	14.43	28.88	38.14	42.71	10.38	124.43	22.57	H28年度	14.00	22.20	26.20	40.40	35.80	9.88	130.00	16.60	
	(全国比)	104.25	78.76	93.63	96.71	91.25	91.66	85.39	111.68	(全国比)	101.67	127.29	76.77	107.70	96.81	100.70	94.63	136.96	
	H29年度	15.19	18.38	33.13	40.38	58.31	9.84	156.83	26.06	H29年度	17.25	19.25	36.88	42.13	51.88	10.05	150.75	16.00	
	(全国比)	88.71	89.03	98.94	92.14	99.70	94.11	101.51	109.00	(全国比)	104.04	100.05	96.05	100.87	116.70	94.21	102.31	111.03	
	全国比差	-15.54	10.27	5.31	-4.57	8.45	2.45	16.12	-2.68		全国比差	2.37	-27.24	19.28	-6.83	19.89	-6.49	7.68	-25.93
6学年	H28年度	21.00	26.33	28.33	47.67	60.00	8.34	142.78	37.22	H28年度	18.00	18.17	33.50	44.50	41.17	8.72	141.50	16.67	
	(全国比)	123.75	130.11	86.20	111.16	109.29	109.40	92.10	157.39	(全国比)	107.27	96.53	89.12	109.52	93.67	107.76	95.65	113.30	
	H29年度	21.82	22.82	33.18	49.00	63.55	8.88	162.82	39.55	H29年度	19.17	20.33	44.17	45.67	57.83	8.93	164.17	20.00	
	(全国比)	107.69	104.19	93.16	105.04	98.15	98.84	97.88	144.27	(全国比)	97.14	101.31	109.32	104.10	113.96	102.05	104.64	121.21	
	全国比差	-16.06	-25.92	6.96	-6.12	-11.14	-10.56	5.78	-13.12		全国比差	-10.13	4.78	20.20	-5.42	20.29	-5.71	8.99	7.91

【表1】同一集団の経年比較

【表2】総合評価の比較（段階別割合）

男子						女子					
1年生	A	B	C	D	E	1年生	A	B	C	D	E
平成28年度						平成28年度					
平成29年度	0.0%	37.5%	25.0%	37.5%	0.0%	平成29年度	0.0%	42.9%	14.3%	14.3%	28.6%
2年生	A	B	C	D	E	2年生	A	B	C	D	E
平成28年度	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	平成28年度	0.0%	18.2%	54.5%	0.0%	27.3%
平成29年度	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	平成29年度	0.0%	30.8%	30.8%	38.5%	0.0%
3年生	A	B	C	D	E	3年生	A	B	C	D	E
平成28年度	27.3%	18.2%	18.2%	18.2%	18.2%	平成28年度	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
平成29年度	30.8%	23.1%	30.8%	0.0%	15.4%	平成29年度	10.0%	50.0%	20.0%	20.0%	0.0%
4年生	A	B	C	D	E	4年生	A	B	C	D	E
平成28年度	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	平成28年度	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
平成29年度	18.2%	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	平成29年度	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
5年生	A	B	C	D	E	5年生	A	B	C	D	E
平成28年度	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%	0.0%	平成28年度	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
平成29年度	12.5%	25.0%	18.8%	37.5%	6.3%	平成29年度	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%
6年生	A	B	C	D	E	6年生	A	B	C	D	E
平成28年度	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%	平成28年度	0.0%	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%
平成29年度	18.2%	45.5%	27.3%	9.1%	0.0%	平成29年度	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%
全体	A	B	C	D	E	全体	A	B	C	D	E
平成28年度	11人	11人	12人	11人	5人	平成28年度	2人	17人	12人	1人	3人
平成29年度	11人	19人	19人	12人	4人	平成29年度	5人	20人	11人	11人	2人
平成28年度	22.0%	22.0%	24.0%	22.0%	10.0%	平成28年度	5.7%	48.6%	34.3%	2.9%	8.6%
平成29年度	16.7%	28.8%	28.8%	18.2%	6.1%	平成29年度	10.2%	40.8%	22.4%	22.4%	4.1%

(2) 考察

ア 全体的な傾向として

- ① 同一集団の経年比較において、前年度から伸びが見られたのは、全項目数 80 のうち、65 と全体の 82% を占めた。【表 1】
- ② 全国比が 100 を超えたのが、男女別各 40 項目中、男子においては 16 項目から 21 項目へ、女子は 23 項目から 26 項目へ増加した。【表 1】
- ③ 全国比差で、プラスのものが、各学年に 3 項目以上あり、特に 5 年生は男子が 8 項目中 5 項目、女子は 8 項目中 4 項目であった。6 年女子は 8 項目中 5 項目であった。【表 1】
- ④ 総合評価の比較（段階別割合）において、AB 段階の児童の割合が、男子では、44% から 45.5% へと増加した。女子は 54.3% から 51% と微減したが、A 段階の児童は 5.7% から 10.2% へと増加した。【表 2】

これらの成果が認められた要因として次のことが考えられる。

- ① 業間運動の内容を年間計画の中に位置づけ、計画的に準備をして実施したこと。
- ② マラソンカードや縄跳びカードなど、児童の意欲を高めるものを用意することで、児童は個々に目標をもち真剣に取り組むことができたこと。
- ③ 新体力テストの結果分析を職員会議に資料として提示することで、自校の課題を全職員で共通理解し、体力向上担当が課題解決のための運動方法を提示したり、楽しんで運動できる場を用意したりしたこと。
- ④ 担任は職員会議での新体力テストの結果分析を受けて、体育の授業の準備運動などで、課題となる内容を克服できるような運動を意識的に取り入れたこと。
- ⑤ 晴れた日は外で遊ぶように各学級で話したり、体育館が安全に遊ぶことができるように環境整備を整えたりしたこと。

#### イ 特徴的（顕著）な傾向として

- ① 種目別に見ると、全国比差でプラスが目立ったものは、立ち幅跳びであった。男子では全学年が、女子では、5 学年中 4 学年がプラスであった。2 年男子は昨年は全国比が 86.05 であったのに対して今年度は 104.33 と伸びが著しかった。【表 1】
- ② 長座体前屈では、男子が 5 学年中 4 学年、女子は 5 学年中 3 学年が全国比がプラスであった。
- ③ シャトルランの回数では、全学年の平均回数が伸びていた。学年が 1 つ上がったためでもあるが、3 学年男子では、昨年は 28.55 回であったの対して、今年は、40.69 回と大きく回数を伸ばしていた。5 年男子も 42.71 回から 56.31 回に伸ばし、5 年女子は 35.80 回から 51.88 回、6 年女子は 41.17 回から 57.83 回と伸びの回数が大きいことが目立った。

これらの特に高い効果が認められた要因として次のことが考えられる。

- ① 昨年度の結果をふまえ、課題となった運動能力を体育の中で意識的に取り入れた運動を行ったこと。準備運動では柔軟運動などの体を柔らかくする運動を意識的に取り入れたこと。
- ② 業間マラソンを継続的に取り組むことで、持久力が高まったこと。高学年を中心にして、真剣に取り組む姿勢を全校に示すことで、全体的に個々の目標に向けて真剣に取り組む児童が多かったこと。
- ③ 業間運動に縄跳びを取り入れ入れることで、リズム良く跳ぶこと、短時間で地面を蹴る力を高めたため、立ち幅跳び（瞬発力を試す項目）の伸びが顕著に表れたこと。
- ④ 縄跳びでは、短縄跳び（個人）と長縄跳び（集団）の 2 つを取り入れることで、個々の目標に向かって運動したり、集団の中で励まし合ったり、声をかけ会ったりして楽しく運動を行う工夫をしたこと。

#### ウ 今後に向けて

- ① 新体力テストの結果を踏まえ、課題意識をもって業間運動や体育の授業を行うこと。個人の努力に頼らず、体力向上担当が中心になって、運動の仕方を提示したり、全職員で運動できる場の環境作りを整えたりすること。
- ② 自校の今年度の課題解決に向けて、運動の仕方を工夫していくこと。全校の課題として握力の課題が明らかになった。体育の鉄棒運動を計画的に行ったり、発展として業間時間や昼休みにも児童が鉄棒に向かったりするような意識つけを行うこと。
- ③ 年度末には体育の指導内容の年間計画を見直したり、業間運動の内容を評価したりして、児童の実態を見ながら、能力を伸ばせるように全職員で協議を続けること。
- ④ 運動を児童が楽しみながら行えるように工夫することを忘れないこと。特に業間運動が受け身の時間にならないように、カードを用意する、賞賛を目的とした評価を行うなどして、進んで運動できる工夫をしていくこと。

【橋場小学校】

(1) テスト結果 対象：現2～6学年児童

橋場小学校 児童（同一集団の経年比較）										（全国比：H27年度 全国平均より）									
男子					女子														
（人数）	（kg） 握力	（回） 上体起こし	（cm） 長座体前屈	（点） 反復横とび	（回） シャトルラン	（秒） 50m走	（cm） 立ち幅とび	（m） ボール投げ	（人数）	（kg） 握力	（回） 上体起こし	（cm） 長座体前屈	（点） 反復横とび	（回） シャトルラン	（秒） 50m走	（cm） 立ち幅とび	（m） ボール投げ		
2 学年	H28年度	12.00	19.00	30.00	40.00	21.00	10.50	119.00	13.00	H28年度	10.00	13.00	21.00	36.00	25.00	10.50	124.00	6.00	
	（全国比）	131.15	163.79	116.55	147.17	111.29	108.85	104.18	150.29	（全国比）	117.10	118.29	74.84	135.44	166.33	111.47	116.69	104.53	
	H29年度	12.00	20.00	22.00	40.00	30.00	10.30	134.00	21.00	H29年度	11.00	8.00	28.00	38.00	53.00	10.40	147.00	12.00	
（全国比）	108.70	141.24	78.63	127.19	105.60	103.74	107.78	174.85	（全国比）	105.67	57.72	90.70	124.22	219.92	104.94	125.51	158.52		
(1)	全国比差	-22.45	-22.55	-37.92	-19.98	-5.69	-5.12	3.59	24.57	(1)	全国比差	-11.43	-60.57	15.86	-11.22	53.58	-6.53	8.82	53.99
3 学年	H28年度									H28年度	11.50	14.50	34.50	42.50	26.50	10.55	137.00	10.00	
	（全国比）									（全国比）	110.90	109.02	115.08	140.54	116.74	103.65	115.73	131.23	
	H29年度									H29年度	12.50	12.00	32.00	45.00	38.00	9.60	147.50	18.50	
（全国比）									（全国比）	101.30	76.24	98.58	132.16	126.79	107.07	114.69	188.58		
(2)	全国比差	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	(2)	全国比差	-9.60	-32.78	-16.49	-8.38	10.05	3.41	-1.04	57.35	
4 学年	H28年度	13.00	21.00	31.00	39.00	32.00	9.90	137.00	26.00	H28年度									
	（全国比）	100.00	129.71	105.19	109.27	81.20	101.20	101.20	99.61	158.25									
	H29年度	13.00	25.00	34.00	43.00	42.00	9.50	132.00	31.00	H29年度									
（全国比）	87.01	135.28	108.04	108.78	89.15	101.04	91.35	153.62	（全国比）										
(1)	全国比差	-12.99	5.57	2.85	-0.50	7.96	-0.16	-8.27	-4.63	(1)	全国比差	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5 学年	H28年度	20.00	27.50	38.00	58.50	80.50	8.80	173.00	40.00	H28年度	16.00	27.50	38.50	55.50	43.50	9.80	139.00	18.50	
	（全国比）	135.14	150.11	123.30	148.33	171.97	107.95	118.72	197.92	（全国比）	116.19	157.68	112.80	147.96	117.63	101.31	101.19	152.64	
	H29年度	21.50	26.50	34.50	57.00	85.50	8.45	180.00	41.50	H29年度	16.00	28.00	37.50	58.00	62.00	9.00	157.00	23.00	
（全国比）	125.58	128.39	103.05	130.08	151.38	109.04	116.66	173.57	（全国比）	96.50	145.53	97.68	138.89	139.48	105.26	106.55	159.61		
(2)	全国比差	-9.55	-21.72	-20.25	-18.25	-20.59	1.09	-2.06	-24.35	(2)	全国比差	-19.69	-12.15	-15.12	-9.07	21.85	3.95	5.36	6.97
6 学年	H28年度	18.00	22.67	32.00	44.33	49.33	9.30	162.00	33.00	H28年度									
	（全国比）	106.07	111.99	97.35	103.39	89.86	99.02	104.50	139.53	（全国比）									
	H29年度	23.33	26.00	29.33	55.00	76.00	8.63	174.33	39.33	H29年度									
（全国比）	115.17	118.72	82.35	117.90	117.39	101.67	104.81	143.50	（全国比）										
(3)	全国比差	9.10	6.73	-15.00	14.51	27.53	2.65	0.31	3.97	(3)	全国比差	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(2) 考察

ア 全体的な傾向として

- ① 同一集団の経年比較において、前年度から伸びが見られた（全国比差 100 以上）のは、全項目数 56 のうち、24 と全体の 43%にとどまる。しかし、そもそも全国比の高い項目が多く、全国比差がマイナスであっても、全国比 130 以上の項目が 8 項目ある、高い数値を維持していることが分かる。【表】
- ② 全国比が 100 を超えたのが、男子においては全 32 項目中、27 項目から 27 項目と変わらず、女子においては全 24 項目中、23 項目から 18 項目へ減少した。【表】

イ 特徴的（顕著）な傾向として

- ① 種目別に見ると、全国比差でプラスが目立つものは、50m走とシャトルランである。【表】
- ② 学年毎に見ていくと、6 学年（男子）が 8 項目中 7 項目で伸びが見られる。長座体前屈以外の項目で、記録的にも大幅に向上していることが分かる。【表】

これらの特に高い効果が認められた要因として次のことが考えられる。

- ① 体育の授業や陸上記録会に向けた練習の中で、走のフォーム作りや走力をつけるためのトレーニングを行ったほか、本事業の取り組みも一つのきっかけとして、運動習慣の形成につながる取り組みを冬期間も継続したこと（始業前の朝ランニングや、朝なわとび、児童会執行部が中心となった意図的な外遊び等）。
- ② 他の 2 校と同様、目標を持って取り組むことができたこと、その達成に向けてみんなで声を掛け合い、好ましい関係の中で競い合いながら取り組みができたこと。
- ③ 6 学年男子の伸びについては、児童の身長が伸びたこと、筋力が付いたこと、上記取り組みによる肥満度が解消したことが相互に関連したことも要因と推察される。

## 9 まとめ

- ・各学校では、新体力テスト等の結果を分析し、実態に応じた取り組みを行っているが、時間の確保や運動の方法、意欲付けなどを他校との情報交換を行うことで、より適切で効果的な対策を行うことが可能になる。今回各校の状況を提供していただいたことは大変貴重な資料となった。
- ・体力テストの結果を分析して全職員で共通理解を図り、課題となる運動に合わせた取り組みを計画的、継続的に行うことは、体力向上対策を行う上で有効であった。
- ・課題となった運動を補強していく場合でも、目標を立てさせたり自分の伸びが分かるような工夫をしたりするなど児童・生徒の意欲が高まるような配慮を大切にしたい。
- ・運動が好きになる取り組みについても、もの（場の設定や道具の工夫）、ひと（ペアやグループ、異年齢等の組み合わせ）、こと（運動の種類や方法）を学校や児童・生徒の実態に合わせてたり、アレンジしたりすることにより、どの子にも運動の楽しさや気持ちよさ、やりがいを味わわせることができる。これらを時期、時程に意図的・計画的に位置付けることが効果を高めると考えられる。
- ・他校とのネットワークや交流を活かした取り組みにより、体力向上にも運動の意欲を高めるためにも効果的であった。他と交流することにより、自校の結束力の向上や励まし合い、向上心や自信の高まりなど、多くの効果が見られた。



《 研究協力校一覧 》

【平成 28 年度】

雫石町立雫石小学校

雫石町立七ツ森小学校

雫石町立上長山小学校

雫石町立下長山小学校

雫石町立西根小学校

雫石町立御明神小学校

雫石町立橋場小学校

雫石町立安庭小学校

雫石町立雫石中学校

【平成 29 年度】

雫石町立七ツ森小学校

雫石町立御所小学校